



内分泌攪乱化学物質については、将来にわたって人の健康や生態系への影響が懸念されている一方、科学的には未解明な点が多く残されており、環境保全上重大な課題と考えています。このため、環境省においては、1998年5月に環境ホルモン戦略計画SPEED'98を策定しました。これに基づき、環境実態調査やリスク評価等を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関等の情報交換を進めています。

この一環として、平成10年度から毎年「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しています。世界の第一線の研究者に参加いただき、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただいております。

今年度は、テーマを「環境の世紀における化学物質 ～内分泌攪乱化学物質に対する多面的なアプローチ～」としています。そして、本年3月、国立環境研究所（つくば市）に内分泌攪乱化学物質の専門研究施設（環境ホルモン総合研究棟）が完成したことを踏まえ、つくば市において開催することとしました。

今回のシンポジウムの主なねらいは、

- ・我が国の内分泌攪乱化学物質問題への取組の現状を海外に発信すること
- ・国際連携・協調により進めている内分泌攪乱化学物質問題の今後の研究の方向性について議論すること
- ・地球規模の問題であると同時に身近な問題でもある化学物質への対応について各方面の関係者により多面的に意見交換すること

の3点です。

この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政、産業界、そして国民にとって、意義ある会議となることを希望しております。

環境大臣

川口 順子